

第2 事業の概要

1 法人運営

(1) 学校法人盛岡大学第3次中期経営計画（平成30年度～平成33年度）」の推進について

ア 第3次中期経営計画の初年度にあたる平成30年度において、計画の目標実現のために次の7つの重点項目の達成に向けて、工程表を作成し計画的かつ積極的に取り組んだ。

- ①教育目標を達成するために入学定員を確保し、収容定員充足率の維持・向上を図る。
- ②施設設備の整備を進め、教育環境の充実を図る。
- ③経営基盤を強化する。
- ④各学校の将来構想について検討する。
- ⑤「対話のある学校」の実践を進める。
- ⑥組織運営、管理体制の整備を進めるとともに、コンプライアンスの徹底を図る。
- ⑦高大連携の強化を図るとともに、高大接続改革に備える。

イ 厨川、松園両附属幼稚園において、平成31年度から子ども・子育て支援新制度における施設型給付制度への移行を決定した。また、附属幼稚園の将来の方向性を検討する「附属幼稚園将来構想検討委員会」が設置され検討が進められた。なお、附属高等学校については、「附属高等学校経営改善検討会」が平成31年4月から設置されることとなった。

(2) 平成30年度学生・生徒・園児数について

ア 法人全体での学生・生徒・園児の総数は2,740人であり、収容定員2,500人を240人上回った。ただし、学部別で見ると盛岡大学栄養科学部12人減、盛岡大学短期大学部64人減、盛岡大学附属松園幼稚園17人減と収容定員を下回った。特に盛岡大学短期大学部においては、昨年度の23人減を大きく上回る減少となった。

イ 盛岡大学附属高等学校においては182人の入学者があり、入学定員150人を大きく上回り収容定員充足率が125.6%となった。

(3) 財政健全化への取り組みについて

「学校法人盛岡大学第3次中期経営計画（平成30年度～平成33年度）」の重点項目である、「経営基盤を強化する。」について、引き続き財政の健全化へ向けて取り組んだ。

（財務状況の詳細については、P27「第3財務の概要」参照）

(4) 既存施設の改修・整備等について

ア 砂込キャンパスにおいては、未整備だった研究室、講師研究室及び教室の計 7 室のエアコン設置工事を行った。

イ 附属高等学校においては、コンピューター教室の更新を行った。

ウ 全施設において、補修・補強工事を行い教育環境の維持に努めた。

(5) F D 研修・S D 研修の実施について

法人の基本理念や情報、課題等の共有を図るため教職員研修会（年 2 回）、事務職員新人研修、業務改善に関わる事務職員研修会を行い、教職員の更なる意識改革と職能成長を図った。

(6) 東日本大震災に関連する措置等について

ア 東日本大震災の被災を受けた学生・生徒・園児に対し、平成 30 年度は 34 名に授業料等学納金の減免措置を実施した。

イ 被災減免対象者は年々減少しているが、いまだに相当数の対象者がいることから、平成 31 年度においても減免措置を継続することを理事会で決定した。

(7) 教育環境整備・奨学金制度拡充の寄付金募集について

教育環境の整備や、独自の奨学金制度や特待生制度を整え、経済的理由により就学が困難な学生、成績優秀な学生に対する支援を行うなど、奨学金制度の一層の充実を図るため新たな寄付金募集を行った。

2 設置する各学校の運営

(1) 盛岡大学

ア 入学者の定員確保について

平成 30 年度の入学者数は文学部 388 人、栄養科学部は 81 人となった。文学部の学科・コース別の人数は英語文化学科 75 人、日本文学科 82 人、社会文化学科 82 人（以上 3 学科は定員 60 人）、児童教育学科 児童教育コース 102 人（定員 100 人）、児童教育学科 保育・幼児教育コース 47 人（定員 40 人）であった。栄養科学部については入学定員 80 人を上回った。

平成 30 年度に実施した平成 31 年度入試では、(1)入試特待生の新設、(2)栄養科学部における A0 入試の新設、(3)文学部・栄養科学部の一般入試前期において青森と秋田に地方会場を新設、(4)栄養科学部の一般入試前期の日程を文学部と同日開催とせず、2 月 2 日に実施などを行った。入試全体の志願者数に関しては、昨年度よりも 30 名ほど少なくなったものの、合計で 1100 名以上を維持した。

イ 対外的広報活動の充実について

① 入試に関する広報活動は、オープンキャンパス、高校訪問及び各種説明会

への参加を核とし、志願者の多い北東北地域を重点地域とした募集活動を行った。

- ② 高校生(受験生)にとってより身近な学生広報スタッフを活用し、母校訪問(休暇中に出身高校を訪問し、近況報告をするとともにパンフレット等資料を配付)や、オープンキャンパスでの対応を引き続き行った。
- ③ オープンキャンパス、高校訪問、母校訪問、本学主催入試説明会、業者主催説明会・高校説明会、盛岡大学附属高校保護者進学説明会などの広報活動を行った。

ウ 文学部の改組・再編及び学部改革について

- ① 文学部の改組・再編検討委員会において、学部の改組・改編に関する諸課題を継続して検討を行った。平成30度においては、文学部各学科の定員等に関し短期大学部の入学定員見直しの動向を踏まえた検討が必要とされた。

エ 教育改革を進めることについて

- ① 教員免許法及び同施行規則改正に伴う教職課程の見直しを行い、平成31年度実施の教職再課程認定において、認定通知(平成31年1月25日付)を受けた。
- ② 第3期認証評価に向けた課題を整理するためのワーキンググループ設置を構想すると共にエビデンスデータの整理を行うこととした。
- ③ シラバスの第三者評価の「全科目対象移行」に伴ったSD研修会を実施し、シラバスの記載内容の適正について、担当教員以外の第三者による評価システムを確立した。
- ④ アクティブ・ラーニングによる授業評価及び実績の可視化については、ICT活用の状況について、タブレットの利用頻度の統計を継続し状況把握に努めた。

オ 特色ある教育活動の推進について

◆文学部

- ① 英語文化学科においては、マルタ共和国への海外語学研修を21名の学生の参加を得て実現した。また、シャドウイングラボの試行が続けられ、TOEICの高得点を得る学生たちが現れた。英語力UP!特別研修、昼休み時間を使用してのランチバンチ、講義期間外での読書会を今期も行った。
- ② 日本文学科においては、古文・漢文の基礎学力が不十分な学生について、日本語学演習(古典語)Ⅰと漢文基礎演習の授業でそれぞれの基礎学力の向上を図り、各演習科目でプレゼンテーション力の強化を図った。また、本年度提出された卒業論文の中から、第11回となる日本文学科賞の大賞1名、優秀賞1名、奨励賞2名を選出し、その結果について学生に周知した。
- ③ 社会文化学科においては、社会学(A・B)・政治学・文化人類学・歴史学・文化財演習・博物館実習等において、フィールド・ワーク及び学外授業を実施(政治学は本年度より新規に実施)し、質的にも例年以上に充実した学外研修

を開催することができた。

現状の受入学生数に見合った教員ポストの増設に向けた議論を立ち上げ、来年度以降、法人に対して具体的な要請をする際の基礎となる構想のプランニングに着手した。

- ④ 児童教育学科においては、平成26年～29年度のカリキュラム評価を行った。平成31年度からのカリキュラムを決定するとともに、DPの上位能力と下位能力の再検討を行い、基幹科目および各系が養成する資質・能力を明確にしておいた。また、年2回（8月・12月）、計4名の教員が授業実践報告を行い実践事例検討会を、ICT活用学科内研修会を2回（12月・1月）実施し、教員の授業実践力の向上に取り組んだ。

◆栄養科学部

- ① 管理栄養士国家試験に向け対策講座、模擬試験、特別講義、国家試験合格者の体験講話などを実施した。
- ② 第33回管理栄養士国家試験の結果は、受験生58名中54名が合格し合格率93.1%であった。学部設置以来の最高値となった。
- ③ 入学前教育と共に入学後教育の充実を図り、また成績不振学生に対する自主学修支援講座を開講した。

◆ MODIL（盛岡大学・盛岡大学短期大学部言語教育研究会）

- ① 英語特別研修、ランチョンセミナー（6回）、MODILワークショップ（学内、学外）、スカイプセッション等の事業を実施した。

カ 学生支援体制の強化について

- ① 入学前教育の評価を行い、改めて入学前教育の目的の明確化、本年度実施入学前教育の効果の確認方法の追加、次年度実施内容の一部変更を決めた。
- ② 履修系統図又はナンバリング、学修成果の調査・測定、GPA制度及び盛岡大学Webポータルシステムを活用し、多様な取組みを行い、支援体制の充実を図った。
- ③ 学生チューター制度の確立及び継続的運用を行った。

キ キャリア教育及び就職支援活動を強化推進について

- ① 平成30年度卒業生の就職状況は、文学部99.7%（英文100%日文100%社文98.4%児教100%）、栄養科学部100%であった。
- ② 一般就職及び公務員
就職センターにおいては、「キャリア教育及び就職支援活動を強化推進する」「卒業生の就職先満足度を高めると共に、全員就職を目指す」を目標に就職対策講座、公務員採用試験対策講座、学内個別企業説明会、合同企業説明会、企業説明会、インターンシップなどを実施した。
- ② 教員採用試験合格率を上げるための方策

平成 31 年度採用の教員採用試験合格者延べ数は現役 60 名(前年 32 名)、既卒 89 名(前年 89 名)、計 149 名(前年 121 名)であった。

教員採用試験対策として、「学内教員による教員採用試験特別講座」「外部講師による教員採用試験受験対策講座」「教員採用試験対策模擬試験」「教員養成サポートセンターガイダンス及びセミナー・勉強会・個別相談」を実施し、対策の強化に努めた。

ク 研究活動の推進について

- ① 学内の学術研究助成において、文学部は 5 件が交付決定され、2,377 千円が交付された。栄養科学部は 5 件が交付決定され、2,500 千円が交付された。
- ② 科学研究費助成事業は、研究分担者としての採択件数を含み 17 件の研究費を受け入れた。内訳は基盤研究 11 件、若手研究 3 件、研究成果公開促進(学術図書)1 件及び研究活動スタート支援 2 件である。
- ③ 『比較文化研究』について、平成 30 年度は「境界領域の諸相」という特集テーマを掲げ、一般研究論文と併せて全 9 編の学術論文(社会文化学科 4 編・日本文学科 1 編・短期大学部 1 編・他大学／機関 1 編)から成る第 29 号を予定どおり編集・公刊した。

ケ 教職員が一体となって大学改革に取り組む風土を醸成することを目的とした FD・SD 活動の推進について

- ① 大学の管理運営、教育・研究支援等の業務に携わる事務職員の資質向上を図るため、SD 研修会を 2 回実施した。
- ② いわて高等教育コンソーシアム主催の FD・SD 研修会に本学から 8 名が参加した。

コ 機器備品及び施設・設備の整備を行う

- ① 臨床栄養学実習室、給食管理実習室等の機器備品の充実を図った。
- ② 学生の教育環境の改善のため、栄養科学実験室にエアコンを設置した。

サ 地域に根ざした大学としての地域貢献活動の推進について

- ① 認定こども園法改正に伴う幼稚園教諭免許状の特例科目を開講した。
- ② 岩手県及び近隣教育委員会と連携し、「スクールトライアル事業」に 33 名、延べ 43 名(昨年度 22 名、延べ 30 名)、滝沢市「ラーニング・サポーター・プロジェクト」に 135 名、延べ 814 名(昨年度 120 名、延べ 529 名)が参加し、学習補助や行事補助等の学校インターンシップ(教育ボランティア)に取り組んだ。
- ③ 地域連携センターと教員養成サポートセンターとの連携を図り、盛岡大学「児童・生徒の学び舎プロジェクト」等の実施を通じて地域貢献を進めた。

（２）短期大学部

ア 入学者の定員確保について

- ① 平成３０年度の入学者数は１０８人と、定員１５０人に対して４２人を下回る大幅な減少となった。受験者数そのものの落ち込みや、盛岡市内の専門学校が保育士養成２年課程を新設したことなどの影響によるところが大きい。
- ② 受験生を増加させるために、高校訪問を３回実施した。より魅力ある短期大学部像の広報を行うために短大リーフレットのダイジェスト版を自主製作した。

イ 対外的広報活動について

保育士の労働環境について、マイナスイメージを払拭するため例年以上に給与の具体的数字、求職件数を説明するなど広報活動に力を入れた。受験者や高校の進路指導の教員には、理解を得られたと思うが、保護者に浸透させることができなかった点が課題となった。

ウ 特色ある教育活動について

後援会の協力を得て、こども発達支援講座、もりもり子育て支援事業、美術ゼミ作品発表、ゼミ成果の集録刊行、附属幼稚園との特別支援教育合同研修会、「もりたん劇場」（卒業発表会）など実施した。こども発達支援講座、卒業発表会、もりもり子育て支援事業、美術ゼミ作品発表、ゼミ成果の集録刊行、附属幼稚園との特別支援教育合同研修会など実施した。特に「もりたん劇場」（卒業発表会）は、地域の保育園や附属幼稚園などの参加もあり、幼児教育者を養成する短大であることのPRをすることができた。

エ 学生の基礎学力の向上と学習意欲向上について

- ① 学生の基礎学力を向上させるために、全学年で漢字テストを実施した。
- ② B312教室の教育ソリューションシステムの活用した授業を展開した。
- ③ 今年度においても保育士模試を実施し、本学の学生の基礎力がどの程度であるか、客観的な視点から検証を行った。

オ 保育者養成校として地域等への貢献について

- ① 岩手県、滝沢市、北上市において、子ども子育て会議に委員を派遣した。
- ② 滝沢市等の特別な支援を要する子ども達への巡回に専門分野の教員を派遣した。
- ③ 放課後児童クラブの支援員養成講座、岩手大学教員免許状更新講習、保育研究大会等への講師、助言者の派遣など、岩手県社会福祉協議会、岩手県生涯学習推進センターの事業に対して、保育者養成校としての地域貢献を行った。

カ 教育環境の整備のための外部資金獲得について

外部資金の獲得については、短大で保育者養成ということもあり、産業との協力関係には困難なところがある。いろいろな可能性を今後とも模索していく

必要がある。

キ 研究環境について

- ① 教職課程の再課程認定申請を控え、教員の研究業績を積み上げるために研究環境の充実を図った。
- ② 盛岡大学短期大学部紀要第 28、29 号（通巻 42 号記念）を刊行した。

ク 教職課程再課程認定申請について

幼稚園教育課程の再課程認申請を行い認可となった。

ケ 短期大学部の将来構想について

定員割れをおこしたことを受け、入試改革を行った。入試の状況を見ながら、数年にわたって様子を分析したうえで、時代のニーズに沿うような入試のあり方を模索し、定員の維持、改定を進めることとした。

コ キャリア教育及び就職支援活動について

- ① 就職率は今年度においても 100% を達成した。また、就職活動の強化の結果、正規採用が多くなり、近年 70% 前後を保っている。
- ② キャリア教育の強化の結果、専門職への就職率が 98% を超える結果となった。また、就職活動の強化の結果、正採用が 64.4% となった。
- ③ 就職センターにおいては、就職支援講座・キャリア支援講座、保育士模擬試験、公務員採用試験対策講座、合同企業説明会などを行いキャリア教育及び就職支援活動の強化を図った。

（３）大学・短期大学部共通

ア 本学の生き残りをかけて更なる大学改革・教学改革の推進について

- ① 前年度の認証評価の受審結果内容及び、5 ヶ年の計画期間の最終年であることを踏まえ、PDCA サイクルの考え方に基づく進捗状況のまとめを各部門において行った。
- ② 学長裁量経費予算における「教育の質向上に係る助成事業」を学内に公募し、平成 30 年度は文学部において 1 件が採択された。

イ 両大学の一層の連携について

- ① 教員免許状更新講習について、大学・短期大学部において選択領域 10 講習を開設した。
- ② 陸前高田市との協定に基づく事業として、大学及び短期大学部から講師を派遣し、「盛岡大学・盛岡大学短期大学部公開講座」を陸前高田市で開講した。
- ③ 大学及び短期大学部に所属する教員の教職教育分野の発表の場として「盛岡大学・盛岡大学短期大学部教職研究」を平成 30 年 3 月に創刊号を発刊し、引き続き発行をしていくこととした。

ウ 学生の心身のケアに関するサポート体制について

- ① 平成30年度からは月曜日から金曜日まで相談員が対応でき、より学生のニーズや緊急性に応えられるようになった。
- ② 特別な支援が必要とされる学生に対する支援については、卒業後の進路だけではなく、大学や修学への不適應感の強い学生への進路変更に関する相談内容にも対応した。さらに、就労支援及び職業訓練施設への橋渡し等も行った。
- ③ 治療が必要と判断された学生に対しては、専門機関及び医療機関への受診を促し、保護者と一体となった支援を行った。
- ④ 短期大学部において「リソースルーム」を設置し、担任教員が心のケアに当たった。

エ 大学・短期大学部共通機関による地域貢献活動について

◆地域連携センター

- ① 盛岡大学特別公開講座、盛岡大学公開講座、子ども発達支援講座（盛岡大学短期大学部公開講座）を実施するとともに、地域活動への参加と提言、地域支援活動の推進などを行った。
- ② いわて高等教育コンソーシアムとの連携により、平泉文化フォーラム、地域人材育成推進委員会地域課題解決プロジェクト及びCOC、COC+事業への参加協力などを行った。
- ③ 地方自治体との相互包括協定により地域との協定事業を推進した。また今年度は、学生と盛岡市議会議員との意見交換会や、盛岡大学・短大部と盛岡市議会との意見交換会なども行った。

オ 機関リポジトリの充実と円滑な運用について

平成30年度の盛岡大学・盛岡大学短期大学部機関リポジトリは、閲覧が10,799件、ダウンロードが98,222件となった。ダウンロード件数については前年比約2倍となった。

カ 図書館利用の活性化について

- ① 教員と図書館職員の幅広い連携を強化し、児童教育学科の「アカデミックスキル基礎講座」全15回の講義のうち、情報リテラシーの領域（図書館利用・情報収集）について、前期の4クラス・8コマ分の授業に関して図書館職員が教員を補助する形で授業運営に参画した。
- ② 洋雑誌のオンラインジャーナルについて、図書館ウェブサイトのトップページに掲載している洋雑誌購入リストからもアクセス可能にしたことで利便性が向上し利用促進を図った。
- ③ 学生目線での図書館運営を行うため、学生サポーターの意見を図書の選書や

利用者サービスに反映させるなどして学生サポーターの活用推進を図った。

キ 他大学との協定に基づく事業について

① カナダ・カモースン大学との協定に基づく事業

・英語研修

秋季海外英語研修は参加希望者が少なく実施が見送りとなった。

春季海外英語研修は4名の参加があり予定通り実施された。

・交換派遣留学

本学から2名派遣した。カモースン大学からの派遣留学生はなかった。

② 中国寧波大学との協定に基づく事業

・交換派遣留学

寧波大学から2名を受け入れた。本学からの派遣留学生はなかった。

ク 同窓会との連携について

聖陵同窓会が主催し、盛岡大学・同短期大学部と盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会共催による、「第6回ホームカミングデー2018」を開催した。今年度は、(学)鳳明学園社会福祉法人みつは会理事長による講話、同窓生が所属する企業・団体の企業紹介、学生の求人、物品販売、ワークショップなどが行われた。

ケ 施設・設備の整備について

① D校舎7教室にICTを活用した授業を行うことができる環境を整備した。

② 臨床栄養学実習室、給食管理実習室及び実験室の機器備品の充実を図った。

コ 危機管理態勢の拡充・整備について

① 火災及び地震避難訓練のマニュアルを作成し、火災避難訓練及び地震避難訓練を実施した。

② 大学における全般的な危機管理体制について、法人本部と連携し危機管理に関する規程の策定に向け検討を進めた。今後、諸規程を検討し、態勢整備を取り進める予定である。

サ 盛岡大学附属高等学校、盛岡大学附属厨川・松園両幼稚園との一層の連携について

① 高校との連携

平成30年度には、附属高校との高大連携に関する協議会において、それまでの取り組みを総括し今後の課題等を整理した。今後は、附属高校生徒受入れ後の教育面での課題についても協議することとなった。

また、「教育事始め」(大学)、「子ども学」の講義(短大)、「出前授業」、「附属高校生のための授業公開」、附属高校における「盛大ガイダンス」を実施するとともに、平成30年度においては、大学入試改革を見据えた高大の英語教育

の在り方について、基調講演を基に高校・大学・短大の英語教育の課題や現状の取り組みについてのシンポジウムを開催した。

② 幼稚園との連携

大学では、幼稚園行事「おひさままつり」への参加や、幼児と教員の協力を得て研究保育と保育研究会を実施した。また、附属幼稚園での拠点園実習に24名が参加した。

短大部では、幼稚園行事「おともだちさくひんさい」への参加や、合同特別支援教育研修会、子育て支援（もりもり子育て）事業などを実施した。また、預り保育ボランティアとして参加し、実践力向上に努めた。

（４）盛岡大学附属高等学校

ア 入学者の定員確保について

平成30年度入試において、本校、都南、二戸の3会場で一般入試前期を実施した。志願者は731名で昨年度とほぼ同数であった。入学者は182人で、定員の150人を上回った。

イ 教育課程の改善を検討し実施する

教育系大学進学コースの教育課程の理科の履修内容について、物理を受験科目とする生徒が少ないことから、履修科目を地学基礎、化学基礎、生物基礎とし、平成31年度入学生から進学コースと同様とすることとした。

ウ 高大連携について

- ① 年間2回、連携に関する協議会を開催した。附属高校のための大学の授業公開、入試広報センターによる大学紹介や学科ごとの出前講義により、生徒の盛岡大学への関心は高まっている。中学生への働きかけとして、高校のオープンスクールの際に希望者を募り盛岡大学見学を昨年に引き続き行った。
- ② 大学、短期大学部で実施する入学試験での授業料等の免除制度について、附属高等学校についても検討することとして、議論を開始した。
- ③ 高大連携の研修会を行い、高等学校の英語の授業の現状、大学入学共通テストで取り入れられる民間による資格・検定試験などについての議論がなされた。

エ 留学制度等特色ある教育活動に取り組む

- ① 留学制度を利用し、今年度1月から1年間の予定で、留学する生徒があった。
- ② 野球・柔道などの部活動の強化が図られ、野球は選抜甲子園大会への出場となり、柔道部は1名がインターハイに、2名が全国選手権大会に出場した。陸上長距離では、高総体県大会及び一関盛岡間駅伝競走で、ともに3位となり好成績であった。
- ③ さんさ同好会が盛岡さんさ踊りに連続出場し、地域との連携を深めた。ダンス部や音楽部、吹奏楽部なども地域の各企画にボランティアとして参加、吹奏

楽部は盛岡大学との合同演奏会を実現した。演劇同好会は生徒講評部門で東北大会に出場した。

オ 施設設備の改善を検討する

- ① コンピュータ教室と新入生の個人用ロッカーの一部を更新した。
- ② 高校としては、財政面の改善及び施設設備の改善のため、平成31年度入学生から授業料を月3,000円、入学時納入金のうち施設設備費を30,000円値上げした。

(5) 盛岡大学附属厨川幼稚園

ア 入園児の確保に努める

- ① 平成30年度の在園児数は85名で、定員75人を上回った。
- ② イメージキャラクターを園児募集要項、未就園児チラシ、ホームページ等を使用し、園児募集に活用した。また、イメージキャラクターをバスのラッピングにし、園のPRを図った。
- ③ 未就園児サークル、園庭開放、保護者の子育て相談などを実施し定員確保に努めた。

イ 特別支援を要する子どもへの柔軟な対応を図る

- ① 園務分掌にて特別支援教育担当を決めた。
- ② 盛岡市ひまわり学園からの入園を受け入れた。
- ③ 短期大学部と共同で特別支援教育研修会を開催した。

ウ 教育内容の充実を図る

- ① 主幹教諭を中心に園内研修、公開に向けての研究を行った。新教育要領について、短期大学部と連携し研修を行った。
- ② 幼稚園教育要領をもとに、教育課程の見直しを行った。
- ③ 公開保育研究会を開催し、参加者を交えて幼稚園の保育やその後の小学校生活について、協議を行った。

エ 盛岡大学・同短期大学部との連携について

- ① 学園祭等において学生の学びの場として園行事への参加を定着させ、学生と教員とが一体となった活動を行った。
- ② 未就園児サークル保護者の子育て相談において、短期大学部教員の専門的な視点から子育て相談を実施した。

オ 園舎内外の環境整備について

- ① 年中ひまわり組の床の修繕とFF式ストーブを更新した。
- ② テラスのコンクリートブロック撤去及びフェンスの改修等を行った。
- ③ 監事、管財課と連携して遊具等の安全点検を行った。

カ 創立50周年記念事業を行う

平成30年6月15日、盛岡大学附属厨川幼稚園創立50周年記念式典、祝会を開催した。参加者は47名であった。記念誌も発刊した。

キ 附属幼稚園の今後の在り方を検討する

附属幼稚園将来構想検討委員会に向けて、今後の幼稚園がどうあればよいかの検討を、職員間で行った。

(6) 盛岡大学附属松園幼稚園

ア 入園児の確保に努める

- ① 平成30年度の在園児数は45名で、定員75人を充足できなかった。
- ② 未就園児サークルや満3歳児保育体験ツアーなど、保護者が関心を持ち幼稚園に来てもらえるよう機会を設け、入園説明会では子ども達の普段の様子をスライドで流すなどして入園の促進を図った。
- ③ 幼稚園行事に関心を持ってもらえるよう、はがきでの案内や未就園児サークルでの声掛けなど入園対象児の保護者に積極的に働きかけた。

イ 教育内容の充実・教員の資質向上に努める

- ① 幼稚園として一人ひとりの子ども達の今の育ちを見ながら研修を行い教師の援助や環境について学びあった。
- ② ジョイキッズ（英語であそぼう）やラグビー教室などを行い、体を動かす楽しさ、外国の風習や言葉に触れる機会を設け保護者も参加しながら取り組んだ。
- ③ 園内研修、園外研修に参加するなどして、教員の資質向上に努めた。

ウ 附属幼稚園の今後の在り方を検討する

- ① 施設型給付移行に伴う処遇改善（研修も含む）、事務処理等について検討を進めた。
- ② 附属幼稚園将来構想検討委員会に向けて、今後の幼稚園がどうあればよいかの検討を、職員間で行った。

エ 盛岡大学・同短期大学部との連携を深める

- ① 学園祭（おひさままつり）では、子どもたちの作品展示と盛岡大学生の授業の一環として参加する取り組みを行った。
- ② 大学の専門の教員の方々の指導のもと研修を行い教育の質の向上を図った。

オ 園舎内外の環境整備を図る

- ① 園舎内の床の沈み、雨漏り、職員玄関の扉の不具合等緊急性のあるところから修繕を行った。また、園舎清掃日には保護者の協力で園舎の床のワックスかけを行った。
- ② セコム、交番との連携で避難訓練を行った。

3 役員会等の開催状況

(1) 理事会

開催月日	議 事 内 容
4月26日	①次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画策定届の提出について
5月24日 (1回目)	①評議員の選任について②平成29年度事業実績報告及び決算について
5月24日 (2回目)	①盛岡大学・盛岡大学短期大学部在学生の保護者に対する寄付金募集について②盛岡大学における入試特待生制度の新設について③盛岡大学短期大学部推薦入学試験における特待生制度の新設について④盛岡大学における経済困窮者向け給付型授業料減免制度の新設について
6月28日	①盛岡大学学則の一部改正について②平成31年度東日本震災被災学生・生徒等の授業料等減免について③学長候補者推薦委員会の委員の推薦について
7月26日 (1回目)	①評議員の選任について
7月26日 (2回目)	①子ども・子育て支援新制度「施設型給付」への移行について②学校法人盛岡大学危機管理規程の制定について
8月30日	①学校法人盛岡大学経理規程の一部改正について
9月27日	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学学則の一部改正について③盛岡大学短期大学部学則の一部改正について④盛岡大学附属厨川幼稚園及び松園幼稚園園則の一部改正について⑤盛岡大学附属厨川幼稚園及び松園幼稚園運営規程の制定について⑥盛岡大学学長候補者の選挙に関する規則の一部改正について
10月25日	①盛岡大学文学部教育職員の採用について②盛岡大学栄養科学部教育職員の採用について③平成30年度盛岡大学附属高等学校奨学金予算額の増額について
11月29日 (1回目)	①盛岡大学及び盛岡大学短期大学部学長の選任について
11月29日 (2回目)	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について③平成30年度予算の第1次補正について④平成31年度学校法人盛岡大学事業計画の骨子及び予算編成方針について⑤職員の懲戒処分等について
12月20日	①盛岡大学短期大学教育職員の採用について②学校法人盛岡大学資産運用基準及び基準外運用の手続き等に関する規程の一部改正について③投資信託による資産運用を行うことについて
1月31日 (1回目)	①評議員の推せんについて

1月31日 (2回目)	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学附属高等学校野球部の選抜高等学校野球大会出場に伴う寄付金募集について③盛岡大学文学部長の選任について④盛岡大学短期大学部長の選任について⑤任期満了に伴う学校長の選任について⑥盛岡大学文学部教育職員の採用について⑦盛岡大学客員教授の任期更新について⑧学校法人盛岡大学危機管理規程の制定について
2月28日	①盛岡大学文学部教育職員の採用について②盛岡大学短期大学部教育職員の採用について③盛岡大学文学部教育職員の教授昇格者の決定について④砂込校舎のエアコン設置計画に伴う受電設備等増設工事請負契約の締結について⑤学校法人盛岡大学顧問設置規程の一部改正について
3月22日 (1回目)	①理事の選任について②評議員の選任について
3月22日 (2回目)	①平成30年度予算の第2次補正について②2019年度事業計画及び予算について③盛岡大学学則の一部改正について④学校法人盛岡大学顧問の選任について⑤平成30年度盛岡大学附属高等学校奨学金予算額の増額について

(2) 評議員会

開催月日	議 事 内 容
5月24日	①理事の選任について②平成29年度事業実績報告及び決算の報告について③盛岡大学・盛岡大学短期大学部在学生の保護者に対する寄付金募集について④盛岡大学名誉教授の称号を授与することについて
6月28日	①盛岡大学学則の一部改正について②平成31年度東日本震災被災学生・生徒等の授業料等減免について
7月26日	①子ども・子育て支援新制度「施設型給付」への移行について
9月27日	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学学則の一部改正について③盛岡大学短期大学部学則の一部改正について④盛岡大学附属厨川幼稚園及び松園幼稚園園則の一部改正について
11月29日	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について③平成30年度予算の第1次補正について④平成31年度学校法人盛岡大学事業計画の骨子及び予算編成方針について
1月31日	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②評議員の選任について③盛岡大学附属高等学校野球部の選抜高等学校野球大会出場に伴う寄付金募集について
3月22日	①平成30年度予算の第2次補正について②2019年度事業計画及び予算について③盛岡大学学則の一部改正について

(3) 常勤理事による案件審査会議

理事会議題及び同報告事項を纏め上げるための予備討議を行い、コンセンサスを図っている。今年度は20回開催した。

4 監査の実施状況

- (1) 平成30年度の監査報告書は下記のとおりである。
- (2) 監事2名のうち、1名は週4日出勤し常勤監査体制を高めている。
- (3) 例月の監査の実施状況は以下のとおりである。

ア 理事会及び評議員会には原則として毎回2名出席し業務の執行状況を監査している。また、案件審査会議についても後日、協議資料をもとに開催状況を監査している。

イ 財務状況に関する監査の充実という観点から、監査法人監査には常勤監事が立会いしている。

ウ 日常は、現預金・重要保管物等の実査及び公印管理状況をはじめ、各種コンプライアンスの遵守状況等について監査を実施し、業務の改善を促している。

エ 決算監査は関係法令、学校法人会計基準、寄附行為に基づいて行っている。

令和元年5月17日

学校法人盛岡大学

理 事 会 御中
評 議 員 会 御中

学校法人盛岡大学

監 事 高橋 捷友 

監 事 阿部 まさえ 

監 査 報 告 書

私たちは、学校法人盛岡大学の監事として、私立学校法第87条第8項及び学校法人盛岡大学寄附行為第15条第1項の規定に基づき、同第2項に定める職務を次により行いましたので、同第3項により本報告書を提出します。

1 監査の方法及びその内容

法人の業務については、監事監査規程の基準に準拠し、理事、内部監査室、その他の職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会等の重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況についての報告を聴取しました。また重要な決議書類を閲覧し、業務の妥当性を検討しました。さらに学校法人から財務状況の報告及び説明を受け、計算書類及び財産の状況を監査したほか、公認会計士の会計監査の都度立会いし、その監査結果の報告を受け、計算書類の妥当性を検討しました。

2 監査の結果

上記による監査の結果、本法人の平成31年3月31日現在の計算書類は、学校法人会計基準に準拠して経営状況及び財政状態を適正に表示していること並びに同日の財産の状況は、別添財産目録記載のとおり適正に表示していることを認めます。

また、本法人の業務または財産に関し、私立学校法第87条第3項第4号に定める文部科学大臣または理事会及び評議員会に報告すべき不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

5 主な行事等

平成30年	4月2日	辞令交付式
	4月4日	盛岡大学及び盛岡大学短期大学部入学式
	4月7日	附属高等学校入学式
	4月14日	附属厨川幼稚園入園式
	4月14日	附属松園幼稚園入園式
	5月17日	大学・短期大学部火災避難訓練
	6月8日	大学・短期大学部地震避難訓練
	6月15日	創立記念日礼拝（67周年）（於細川泰子記念礼拝堂）
	7月5日	新規採用事務職員研修①
	7月～8月	新規採用事務職員研修②
	8月9日	上期職員研修会
	8月13日～16日	夏期休暇
	10月7日	第6回盛岡大学・盛岡大学短期大学部「ホームカミングデー」
	12月27日	下期職員研修会
平成31年	12月29日～1月3日	年末年始休暇
	2月28日	S D研修会
	3月1日	附属高等学校卒業式
	3月8日	新規採用事務職員研修③
	3月8日	附属厨川幼稚園修了式
	3月9日	附属松園幼稚園修了式
	3月13日	盛岡大学卒業式
	3月14日	盛岡大学短期大学部卒業式
	3月27日	退職辞令交付式